

St. Luke's International University Repository

Working Status of the Students of St. Luke's
College of Nursing who Graduated 6 to 10 years
ago.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菱沼, 典子, 小山, 真理子, 菊田, 文夫, 近藤, 潤子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/291

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



聖路加看護大学卒業より6—10年後の就業状況

菱 沼 典 子*, 小 山 眞 理 子**
 菊 田 文 夫***, 近 藤 潤 子****

要 旨

本学の、学生に対する教育の評価は、在学中の教科目の成績だけではなく、卒業後、看護専門職業人としての働きを続けているかどうか、重要な指標になろう。そこで、卒業後6—10年を経過した卒業生の就業状況について、質問紙による実態調査を行なった。

対象者251名、有効回答数187、回収率は74.5%であった。

その結果、次のような実態が明らかになった。

- 1) 卒業後6—10年現在の就業率は、71%であった。
- 2) 就業分野は、臨床看護、健康管理、看護教育の3分野にわたり、職種としては保健婦が最も多かった。
- 3) 卒業直後に就業したところに勤続しているのは、23%であった。
- 4) 卒業直後の就業先から、3—4年後までに54%が異動していた。
- 5) 現在の仕事に対し、60%が満足していた。
- 6) 現在就業していない最大の理由は、育児のためであった。
- 7) 現在就業しているものの内、今後とも看護の分野で働き続けたいものが74%、就業していないもののうち、仕事への復帰希望者は92%であった。

以上の結果に、考察を加えた。

キーワードズ

聖路加看護大学 卒業生 就業率 就業状況 教育評価

1. はじめに

大学での教育の最終評価は点数化された学習成績のみではないだろうという疑問がある。大学教育の最終的な評価の指標は不明確である。

しかし、本学の場合は看護学教育が一つの大きな目

的であるので卒業生が看護職業人であり続けているかどうかは、本学の教育評価の一つの指標になると考えられる。そこで、本学卒業後6—10年の卒業生に対して、就業状況の調査を行ったので、その動向を報告する。

2. 調査方法

卒業直後と現在の就業状況に関する質問紙（資料参照）を作成し、本学を1982年から1986年に卒業した者（昭和53年度から57年度の入学生で、卒業後6年以上経過した者）全員251名に配布し、回答を依頼した。回収は、無記名で、郵送によった。

* 聖路加看護大学教授（解剖生理学）
 ** 聖路加看護大学助教授（看護教育学）
 *** 聖路加看護大学講師（情報科学・健康教育）
 **** 元聖路加看護大学教授 現札幌医科大学
 （看護教育学・母性看護学）

表1 卒業年毎の回収率

卒業年	対象者数	回収数	回収率
1982	41	33	80.5
1983	51*	41	80.4
1984	56	34	60.7
1985	51	40	78.4
1986	52**	39	75.0
計	251	187	74.5

* 1978年入学生2名を含む
 ** 1981年入学生1名を含む

調査は1992年7月から9月に実施した。

3. 結果

回答数は188, うち有効回答数187, 回収率は74.5%であった。卒業年毎の回収率は表1の通りである。

(1) 卒業直後の就業先

就業先は、病院、診療所、保健所、市町村、企業の健康管理室、小・中・高校であったが、病院が圧倒的に多く、卒業年による違いはみられなかった(図1)。わずかであるが、大学院または助産婦学校へ進学した

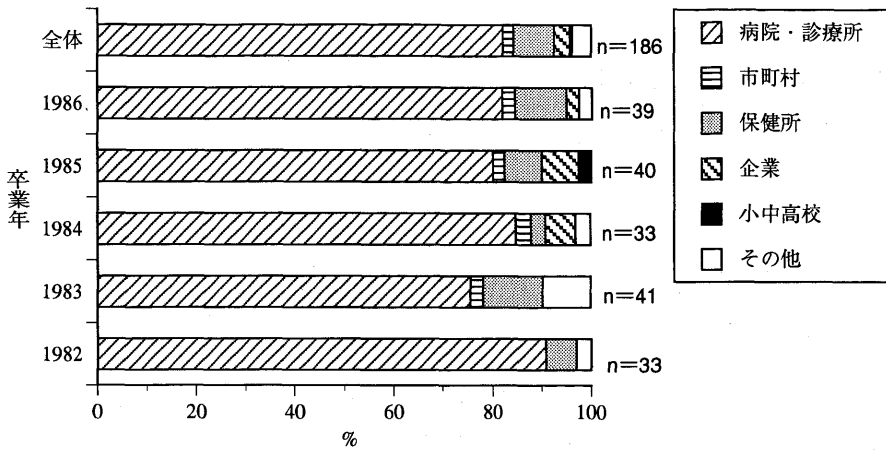


図1 卒業直後の就業先

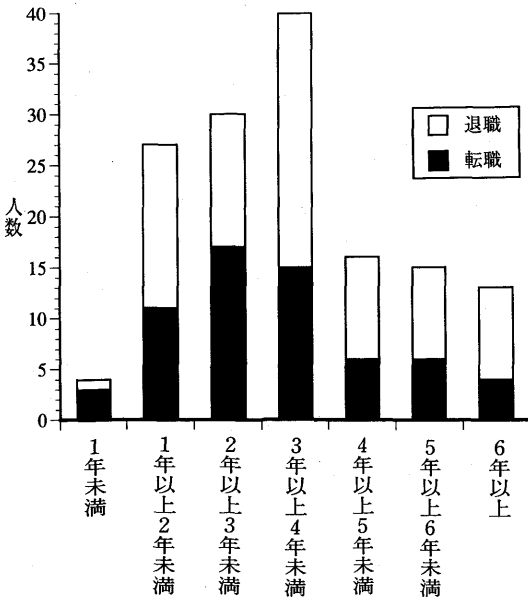


図2 卒業直後の就業先からの移動時期

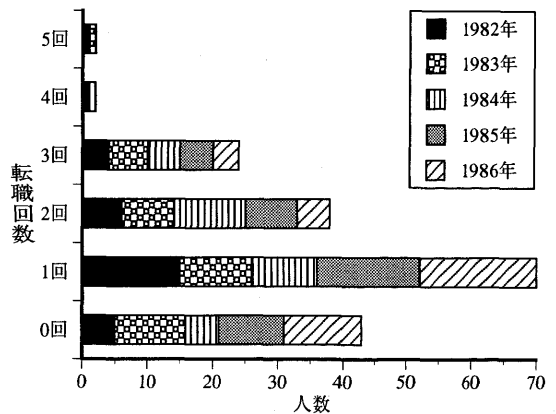


図3 転職回数

者(5名2.7%), 就職しなかった者(2名1.1%)もあった。

(2) 卒業直後の就業先の継続期間

卒業直後に就業した職場に、6-10年経過した調査時現在も在職していたのは、42名(22.6%)であった。継続していなかった者の内、転職した者が62名(33.3%), 退職した者が83名(44.6%)であった。異動が最も多かったのは、3年以上4年未満の時期であり、この時期まで101名(全体の54.0%)が、異動していた(図2)。転職に限ると、最も異動が多いのは、2年以上3年未満で、退職した者よりも早い時期から異動が始まっていた。

(3) 卒後6-10年までの転職の回数

全体では転職を1回経験している者が最も多く、70名(37.4%)であったが、次に多かったのは、転職経

験がないもの(前項の卒業直後の就業先を継続していたもの)であった。転職2回が38名(20.3%), 3回が24名(12.8%)で、最高は5回であった(図3)。

卒業年毎にみると、転職1回が最も多い中で、1983年卒業のグループのみは、転職経験なしと1回とが同数であった。

(4) 卒後6-10年の就業状況

a) 就業率 116名(62.0%)が常勤、17名(9.1%)がパート勤務で、合計71.1%が就業しており、54名(28.9%)が就業していなかった。卒業年毎の就業率は1982年(卒後10年)が63.6%, 1983年(同9年)が70.7%, 1984年(同8年)70.6%, 1985年(同7年)75.0%, 1986年(同6年)71.8%とほぼ等しく、この点からみると卒後6-10年は均一な集団であると思われる。就業に影響する要因となることを予測して、婚姻率および子の保有率をあわせて調査したが、就業率

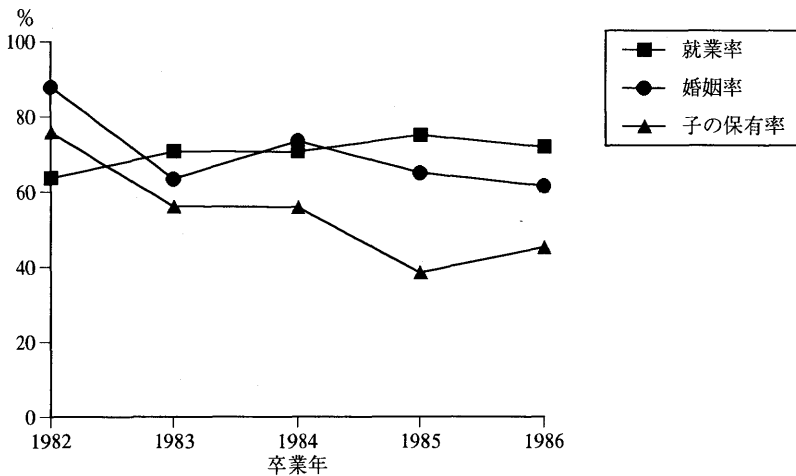


図4 就業先・婚姻率・子の保有率

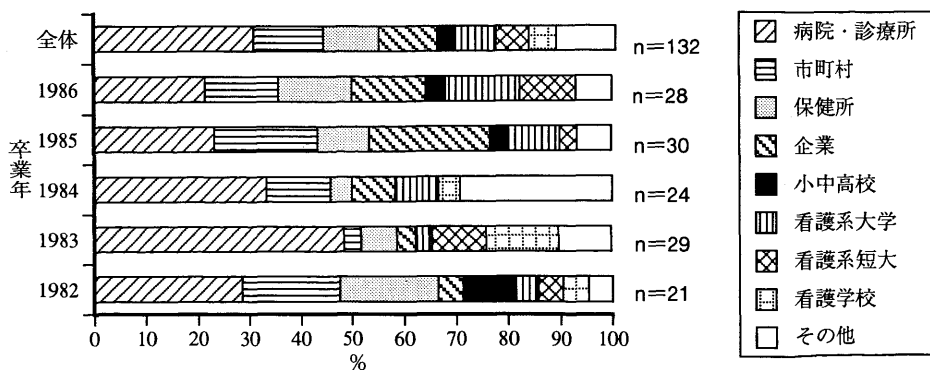


図5 卒後6-10年現在の就業先

がほぼ等しかったのに対し、婚姻率および子の保有率は卒業年によって違いがあり、10年を経過したグループは特に高率であった(図4)。

b) 就業先 就業先は病院、診療所、市町村、企業の健康管理室、保健所、看護系大学・短大・専門学校、小中高校であった。卒業直後の就業先にはなかった、看護系の大学・短大・専門学校が加わり、また就業先の割合も、卒業直後とは様相が異なっていた。全体としては、病院・診療所が41名(31.0%)、市町村18名(13.6%)、企業の健康管理室15名(11.4%)、保健所14名(10.6%)、看護系大学11名(8.3%)、短大8名(6.1%)、専門学校6名(4.5%)、小中高校4名(3.0%)で、臨床分野、健康管理分野、教育分野に分散していた(図5)。

学年によって、就業分野に差があるが、1983年卒業(卒後9年経過)のグループでは、臨床分野が多く、健康管理分野が少なかった。既に見たように、このグループは、転職していないものが多いグループである。また、1984年卒業(卒後8年経過)のグループでは、その他に分類された大学や短期大学の健康管理室、老人ホーム、福祉保健センター、企業の消費者相談室などに就業している者が多かった。

c) 職種 職種は、保健婦が63名、看護婦が32名(内、役職がついているものが14名)、看護系教員24名(内、専門学校専任教員7名、大学・短大助手10名、同講師7名)助産婦7名、養護教諭4名、その他3名であった(図6)。保健婦が群を抜いて多かったが、保健婦の就業先は、市町村18名、企業の健康管理室15名、保健所12名に次いで、病院に8名等であった。

d) パートタイム パートタイムで働いているものだけをみると、病院10名、保健所4名、その他3名で、その職種は、看護婦6名、保健婦8名、助産婦2名、その他1名であった。

(5) 就業している者の仕事への満足度

現在の仕事に対して、「非常に満足」13名(9.8%)と「まあまあ満足」64名(48.1%)を合わせると、約60%が満足していた(図7)。一方で「非常に不満」というものが10名(7.5%)、「少し不満」が46名(34.6%)であった。

職種別の満足度を表2に示した。「非常に満足」というものがなく、不満の方に偏っていたのは、スタッフとして働いている看護婦と助産婦であった。「非常に不満」と思うものがいなく、満足の方が多くなっていたのは、副主任以上なんらかの役職が付いている看護婦と養護教諭、短大・大学の教員であった。保健婦は、役職に関して調査不足のため、役職の有無で比較することができなかったが、満足の方が多くなっていた。

(6) 就業している者の継続意欲

今後も看護関係の仕事を続けたいかどうかは、「絶対に続けたい」が22名(16.4%)、「できるだけ続けたい」が79名(59.0%)で、合わせると74.4%に及んでいた。その理由は、「好きで面白い」が17名、「やりがいがある」が7名、「いままで学んできたことを生かしたい」が6名、「免許を生かしたい」が6名、「経済的基盤である」が5名などであった。

一方、「できるだけ早く辞めたい」というものが5名(3.7%)あり、条件付きでの継続を希望しているのには、「結婚するまでは続けたい」4名(3.0%)、「育児期間は辞めたい」16名(11.9%)があった。

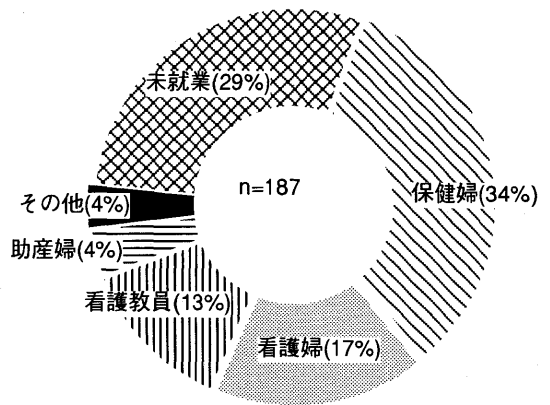


図6 卒業後6-10年現在の職種

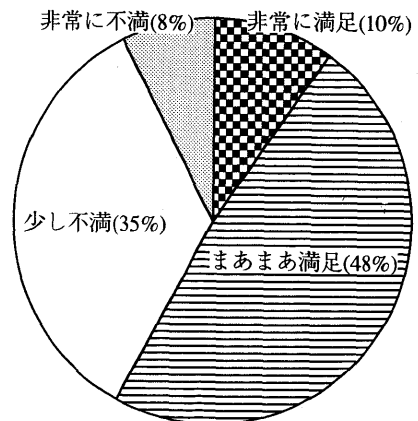


図7 現在の仕事への満足感

(7) 就業していないものの理由及び復帰の希望

現在就業していない者の理由は、表3に示した通りである。「疲れた」、「おもしろくなかった」の選択肢に、回答のあった者はいなかった。育児が就業をしていな

表2 職種別仕事に対する満足度

	人数	非常に満足	まあまあ満足	やや不満	非常に不満
看護婦 (スタッフ)	13	0	5 (38.5)	6 (46.2)	2 (15.4)
看護婦 (役職付き)	19	2 (10.5)	11 (57.9)	6 (31.6)	0
助産婦	7	0	1 (14.3)	4 (57.1)	2 (28.6)
保健婦	63	6 (9.5)	33 (52.4)	19 (30.2)	5 (7.9)
養護教諭	4	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0
短大・大学教員	17	2 (11.8)	9 (52.9)	6 (35.3)	0
専門学校教員	7	1 (14.3)	2 (28.6)	3 (42.9)	1 (14.3)

上段：実数 下段：%

表3 現在仕事をしていない理由

理由	人数	%
育児のため	40	74.1
結婚のため	7	13.0
夫の仕事(転勤・海外赴任)	4	7.4
進学のため	4	7.4
その他	7	13.0

(n=54複数回答)

い最大の理由になっているが、就業していない者の内、子供がいないのは20.4%であった。比較のために、就業している者の中で子供のいない割合をみると、看護婦では46.8%、保健婦では44.4%、看護教員では70.8%であった。

また、今後看護関係の仕事をするつもりがある者が50名(92.6%)で、仕事の条件には、「家庭との両立」、「夜勤がないこと」、「託児所があること」などが挙げられていた。

(8) 卒業後受けた教育

大学院修士課程に進学した者26名(13.9%)、博士課程に進学した者2名であった。助産婦学校への進学が3名、看護教員養成コースを受講した者が6名(3.2%)あった。

(9) 学会活動等

学会発表の経験がある者35.4%、論文・書籍等を発表している者26.6%であった。発表回数の内訳を図8に示す。

4. 考 察

本学卒業生に対する、1984年(昭和59年)の動向調査¹⁾²⁾では、卒後6年目で就業率が低下し、以後横ばい状態になると報告されている。今回の調査でも、6年~10年の間の就業率はほぼ同じであったが、1984年の調査の約60%に対し、今回の調査では約70%であった。この8年間で、卒後6~10年経った卒業生の就業率は約10%上がったといえよう。

卒後6~10年では、婚姻率と子の保有率は異なっているにもかかわらず、就業率は変わらないこと、また、就業していないものに子の保有率が高いとはいえ、看

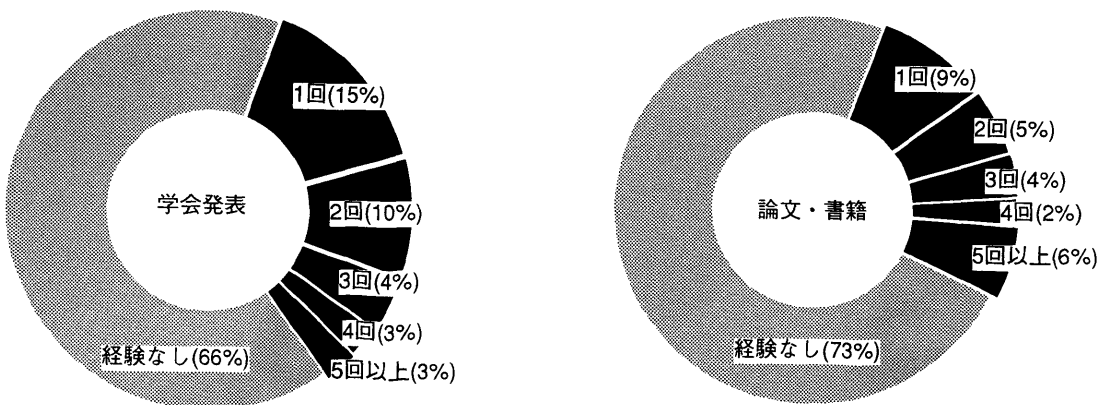


図8 学会発表・論文発表等の経験

護婦でも保健婦でも約半数は子があることは、婚姻や子供より、就業率に影響する他の要因の存在が示唆される。

卒業後6—10年の卒業生の活動の場が、卒業直後とは大きく変化する。卒業直後には臨床看護をやり、1—2回の転職を経て、保健婦と看護教育に散らばっていくという、1984年の調査で明らかにされた本学の卒業生の特徴は、そのまま今回の対象者にもあてはまった。

卒業直後ではほとんどいなかった、大学院への進学者が、6—10年後には1割を越え、学会発表や論文等の発表もそれぞれ3割に及ぶことは、看護における大学卒業生の役割を自らとっていく姿勢と読み取れる。

卒業後6—10年の本学の卒業生は、臨床看護、健康管理、看護教育の分野で、看護専門職として働き続けており、しかも、半数以上が仕事にまあまあ満足であって、継続の意欲あるいは復職の意欲が高いという結果から、今後の活躍が期待できよう。看護学部の教育に、専門職の仕事の継続に影響する要因があるのかどうか、あるとすればそれは何なのかが、今後の研究課題である。

謝辞

本調査にご協力下さいました卒業生の皆様に、心より感謝いたします。

〈文献〉

- 1) 吉田時子他：聖路加看護大学卒業生動態調査（第1報）、聖路加看護大学紀要、10、11-16、1985.
- 2) 吉田時子他：聖路加看護大学卒業生動態調査（第2報）、聖路加看護大学紀要、11、13-22、1986.

【調査】

以下の質問の該当する番号に一つ〇印を、また()内には該当する語をお書き下さい。

- I. あなたが、聖路加看護大学を卒業したのは西暦何年ですか。
 1. 1982年 2. 1983年 3. 1984年 4. 1985年 5. 1986年
- II. あなたは卒業してすぐにごとうしましたか。
 A. 就職した
 1. 病院 2. 診療所 3. 保健所 4. 市町村 5. 企業の健康管理室
 6. 小、中、高校 7. 看護学校 8. 看護系短期大学 9. 看護系大学
 10. その他 ()
- B. 進学した [1. 助産婦学校 2. 大学院修士課程 3. その他 ()]
 C. その他 具体的にお書き下さい。 ()

III. あなたは卒業後初めて勤務した看護関係の仕事は今も続けておられますか。

- (1. はい 2. いいえ)
 「いいえ」と回答した方は以下の該当にご記入下さい。
 1. _____年 _____月で退職した
 2. _____年 _____月で転職した

IV. あなたは卒業してから現在までに何回仕事を変えましたか? () 回

- V. あなたは、現在仕事をしていますか。
 1. 常勤として働いている。 (VIへ進んで下さい)
 2. パートタイムで働いている。 (VIへ進んで下さい)
 3. 働いていない。 (VIIへ進んで下さい)

VI. 前問で、(1)または(2)と答えた方のみお答え下さい。

- A. 現在、あなたが勤務しているところは以下のどれに該当しますか。
 1. 病院 2. 診療所 3. 保健所 4. 市町村 5. 企業の健康管理室
 6. 小、中、高校 7. 看護学校 8. 看護系短期大学 9. 看護系大学
 10. その他 ()

B. あなたの職種に該当する a~b に〇印をつけ、さらに職位について 7~h に〇印をつけてください。

1. 看護婦 [7. スタッパナース 4. 副主任 9. 主任
 I. 副長 4. その他 ()]
 2. 看護教師 [7. 看護学校の専任教員 4. 助手 9. 講師
 I. 助教授 4. 教授 8. その他 ()]
 3. 保健婦 [()]
 4. 助産婦 [()]
 5. 業護教諭 [()]
 6. その他 [()]

C. あなたは今の仕事に満足していますか。

1. 非常に満足している 2. まあまあ満足している
 3. 少し不満足である 4. 非常に不満足である

- D. あなたは今後も看護関係の仕事続けたいと考えていますか。
 1. 絶対に続けたい 2. できるだけ続けたい
 3. できるだけ早く辞めたい 4. 結婚するまでは続けたい
 5. 育児期間は辞めたい 6. その他 ()
- E. さしつかえなければ、Dに回答されたこと理由をお聞かせください。 ()

VII. 問 V. で (3) 働いていないと答えられた方、お答え下さい。 (→ VIIへ進んで下さい)

- A. 今後、看護関係の仕事をするつもりがありますか。
 1. ある (その条件は?)
 2. ない

B. 今、仕事をしたい理由は何ですか。

1. 被れた 2. おもしろくなかった 3. 結婚のため
 4. 育児のため 5. その他 ()

VIII. あなたは、大学を卒業してから以下の教育を受けたことがありますか。

- あてはまるもの全てに〇印をつけて下さい。
 a. 大学院修士課程 1. はい 2. いいえ 3. 在学中
 b. 大学院博士課程 1. はい 2. いいえ 3. 在学中
 c. 助産課程 1. はい 2. いいえ 3. 在学中
 d. 教員養成コース 1. はい 2. いいえ 3. 在学中
 e. その他 ()

IX. あなたは卒業してから今までに以下のような活動をしたことがありますか。ある方は該当欄に数字をご記入下さい。

1. 学会発表 () 回
 2. 論文・書籍等 () 編

X. あなたは配偶者がいますか。

1. はい 2. いいえ

XI. あなたは子どもが何人いますか。 () 人

XII. 聖路加看護大学での教育に関して、何かご希望やご意見があれば何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。